燃えろ岡山　　輝け にいみ

岡山県郷土文化財団

クラシックコンサート

出　演	倉敷管弦楽団
指　揮	菊地　東
ソプラノ	岡崎順子
フルート	安達雅彦

日時　昭和61年２月16日（日）
午後１時30分開場・２時00分開演

会場　新見市民会館

主催　岡山県郷土文化財団・新見市教育委員会
後援　新見市文化協会

曲　　目

Ⅰ．モーツァルト

歌劇「フィガロの結婚」序曲

Ⅱ．モーツァルト

歌劇「フィガロの結婚」よりアリア

第２幕より――「恋とはどんなものかしら」

第４幕より――「恋人よ早くここへ」

歌劇「魔笛」よりアリア

第２幕より――「愛のよろこびは露と消え」

モテット「おどれ,喜べ,汝幸いなる魂よ」よりアレルヤ

ソプラノ独唱　岡　崎　順　子

Ⅲ．バッハ

管弦楽組曲第２番 ロ短調 ＢＷＶ1067

フルート独奏　安　達　雅　彦

休　　憩

Ⅳ．シューベルト

交響曲第８番 ロ短調「未完成」

曲　目　解　説

● モーツァルト　歌劇「フィガロの結婚」

モーツァルトの４幕からなるオペラ・ブッファ。

ダ・ポンテの台本による。

初演は，１７８６年ウィーン。日本初公演は１９５２年（昭和２７年）

フランス革命の導火線になったと評されるボ・マルシェの同名の喜劇に基づくもので，権力者に逆らう機智にとんだ庶民の姿をいきいきと描いたモーツァルトの最大人気作。

音楽は，オペラ・ブッファの形をとり，軽快優雅，各人の喜怒哀楽をいきいきと表現し，古い時代の作品ながら，今も劇内容と相まって人々の共感をえて，全世界で愛されている。序曲をはじめ，劇中にはオペラの舞台を離れ，演奏会や放送で聞かれる名曲が多いが，とりわけケルビーノ（ソプラノ）の「恋とはどんなものかしら」，フィガロ（バリトン）の歌う「もう飛ぶまいぞこのちょうちょう」などのアリアは名高い。

● モーツァルト　歌劇「魔笛」

初演は１７９１年ウィーン。モーツァルトの作品のなかでもドイツのジングシュピール（歌芝居）の伝統の中で書かれているもので，イタリア・オペラとは違って歌詞もドイツ語を用い，後のウェーバーらによるドイツ国民歌劇の開花につながってゆく重要な意味をもった作品である。

「愛の喜びは露と消え」は，第２幕で歌われる。

異国の旅の王子タミーノと夜の女王の娘パミーナは恋をしている。やがてタミーノはザラストロという高僧のもとで修業をすることになり，無言の行をしているタミーノはパミーナに口をきかなくなる。パミーナは捨てられたと思って絶望し，美しい歎きのアリア「愛の喜びは露と消え」と歌うのである。

モーツァルトの音楽がどんなにたくみに人物の性格や情況を描きだし，生きることの喜びを歌いあげているかはやがてお聴きになるとおりである。

● モーツァルト　モテット「おどれ、喜べ、汝幸いなる魂よ」

１７７３年，ザルツブルグにおいて作曲された。

モテットとは，中世ルネサンス時代を最盛期とする重要な声楽曲の名称であり，教会的な作品である。

この「おどれ，喜べ，汝幸いなる魂よ」は，モーツァルトのザルツブルグでの音楽的環境，父レオポルトの教育的配慮，それに旅行によって得られた音楽的成果の３つの要素がいずれも欠くことのできない要因になって生まれた作品であり，モーツァルトの初期のモテットである。

曲　目　解　説

● バッハ　管弦楽組曲第２番　ロ短調　BWV１０６７

バッハの管弦楽組曲の４つの中で最も親しまれている第２番ロ短調は，フラウト・トラヴェルソ（横笛のフルート）と弦楽，通奏低音という編成によっている。この作品の作曲年代は明らかではないが，バッハの作った唯一つのフラウト・トラヴェルソとオーケストラのためのまとまった作品であり，バッハの手によってしか書き得ない高貴さと音楽的完成度をもっていることは疑い得ない。全体は，序曲に６つの舞曲が続く形で構成されている。

１．序曲（フランス風序曲）　２．ロンドー（アレグロ）　３．サラバンド（アンダンテ）
４．ブレー（アレグロ）　５．ポロネーズ（モデラート）　６．メヌエット（アレグレット）
７．バディヌリ（アレグロ）

● シューベルト　交響曲第８番　ロ短調「未完成」

第８交響曲は，シューベルトが２５才の１８２２年１０月３０日に着手されたことが自筆楽譜によって判る。

しかし，よく知られたようにこの曲は，第３楽章のごく一部のスコアとピアノスケッチが残されたまま未完成となっている。そこからこの「未完成」というタイトルがついている。

シューベルトの死後１８６５年にウィーンの指揮者ヨハン・ベルベックが発見・初演するまで，この名曲は４０年以上も彼の親友ヒュッテンブレンナーの手もとで眠っていた。

編成はフルート，オーボエ，クラリネット，ファゴット，ホルン，トランペット，各２，トロンボーン３，ティンパニー，弦５部。

第一楽章（アレグロ・モデラート）

ロ短調　４分の３拍子。ソナタ形式

チェロとコントラバスが冒頭の有名な旋律を弾く。この旋律の動機がこの曲全体を支配する。

第１主題は，低音のリズムとヴァイオリンの分散和音の上にオーボエとクラリネットで示される。ファゴットとホルンによる短い経過部のあと，シンコペーションのリズムにのってト短調の第２主題がチェロで示される。

第二楽章（アンダンテ・コン・モート）

ホ短調　８分の３拍子。

コントラバスのピチカートに支えられたホルンとファゴットによる導入で，ヴァイオリンがゆったりとした情感の主題を奏で，それにチェロが対旋律をつける。